

日時：平成31年2月26日（火）20：00～

場所：ふれあい歯科ごとう

出席者（敬称略）：五島、矢作、豊田、澤村、佐藤（雅英）、岸野、齊藤

## 1. （新宿区で薬剤+栄養の問題を抽出）100例を設定

ICFをベースに項目分けを行った。「ICF国際生活機能分類改訂版（WHO）」  
厚生労働省のHPでも確認できる。

① 薬剤師もしくは他職種が食事の質と量、栄養に問題があると感じる「程度」でいいんじゃないか。低栄養の調査ではない。厳密さを求めない：あくまで食べる幸せ。

② →ここからおいしく食べられない、食事量が減っていると感じるか確認してく。

具体的なアンケートに落とし込んでいく

新食研のグループで、ICFをベースに考慮した。

例) 経済状況（貧困）をどう分けるか：負担割合、生活保護など5段階くらいに分ける  
他の地域でも同様な調査ができるように意識して作成する。

食事や栄養に関する問題を抱えているという判断：客観的な指標

医療の問題、介護の問題

→在宅療養患者を対象として調査シート 印刷して配布（内容を再度検討、吟味して）

個人情報に関することの説明。項目の説明：他の薬剤師にお願いする場合に分かりやすいマニュアルを作成する。（目的：この地域の高齢者の食事にはどのような問題があり、その原因はどこにあるか。薬との関係が明らかではないためその相関性を調べる。）

薬局からの（管理栄養士）による「ならでは」栄養サポート

なるべくどなたでもできる様なアンケートを作成する（調査票をしっかりと作る）

進行性癌に限らず終末期を除外するかどうか、項目に入れるかどうか。

こ・れ・と 薬剤（処方）の相関をみる。

## 2. 新食研×薬剤師×栄養士で冊子（リーフレット）

A) 薬剤師が栄養の意識を持たなければならない理由

B) 患者さんが栄養の意識を持ってもらうこと、どちらを…こちらのWGでは「A」でしょ

① 薬剤師に読んでもらうもの。なぜ薬剤師が栄養の事を知らなければならないのか。

→カード状の（チェック）リストをセットとして？意識づけ

② 患者さんに意識して欲しい栄養の事

→パンフレット、小冊子

薬局情報提供できるツールを作る。1. 2を分離して進行していこうか。

次回、この会「齊坊主ウイング（仮）」3月14日（木）20：00～